

施工マニュアル

はじめに

デコラトーンは窯業系サイディングの形状を生かした塗装技法により、既存サイディングの風合いを自然に残しながら新たな美観の創出を可能にする2色塗り再現工法です。さらにクリヤー保護コート
の併用により上塗り材の期待耐用年数の延長を可能にし、外壁の長期的な保護を実現します。

デコラトーンによる美しさと機能性を最大限に発揮するためには、施工手順と各工程の注意事項を遵守いただくことが不可欠です。

必ず施工前に全工程をご確認いただき、正しい施工を行うための資料としてご活用ください。

CONTENTS



- 02 | はじめに
- 03 | 適用下地
- 04 | 塗装工程
- 05 | 施工方法
- 09 | 補修方法について
- 10 | 施工上の注意事項



適用下地

窯業系サイディングボード

■単色仕上げとの仕上がり比較イメージ

工法	単色仕上げ	デコラトーン
仕上がりイメージ		

■サイディングの形状による仕上がりイメージの違い

デコラトーンは、サイディングの凹凸や目地の深さ、目地幅などの形状の違いにより、模様見え方が異なります。

タイル調①



タイル調②



石材調



ランダムタイル調①



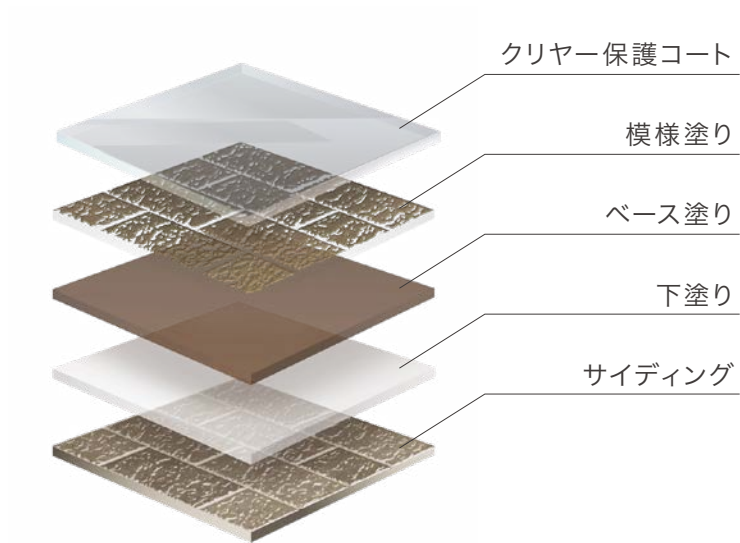
ランダムタイル調②



横長石材調



塗装工程



① 素地調整

付着したゴミなどを取り除き、非塗装面は完全養生

② 下塗り

基材に適した下塗り材で下塗り

規定の所要量と間隔時間は厳守

③ 試し塗り

ローラーごとに塗り込み深さ・面積を確認

ベース色での確認を推奨

④ ベース塗り

均一に塗布され、目地に溜まりがないか確認

基材全体をムラなく均一に塗装

⑤ 模様塗り

塗装後は十分に乾燥させる

目地に塗料が入り込まないように注意

⑥ クリヤー保護コート

塗り残し、塗り忘れがないか確認

施工方法

■施工道具

ローラーはベース塗り・模様塗り・クリアー保護コートの各工程ごとに選択してください。また入隅部や散り際への模様塗りは、金巻刷毛や目地用刷毛での塗装を推奨いたします。

塗装工程	ベース塗り・クリアー保護コート	模様塗り
推奨施工道具	 <p>ウルトラローラー ©円谷プロ ※ウルトラTOPの施工には必ずウルトラローラーをご使用ください。</p>	 <p>ハイトップ (3mm・5mm) [大塚刷毛製造株式会社]</p>
	入隅部には金巻刷毛や目地用刷毛での塗装を推奨いたします。	
	 <p>金巻刷毛</p>	 <p>目地用刷毛 [大塚刷毛製造株式会社]</p>

①素地調整

- 素地に付着しているゴミ、ホコリ、油脂類、異物を取り除いてください。
- 劣化した既存塗膜は電動工具、手工具を用いてケレンしてください。
- 塗装面の周辺は、汚れや損傷を与えないように養生テープなどで完全養生してください。

②下塗り

- 基材に応じた下塗り材を塗布してください。
- 劣化の激しい箇所や吸い込みの多い箇所は部分的に増し塗りしてください。
- 規定の所要量と間隔時間を厳守してください。

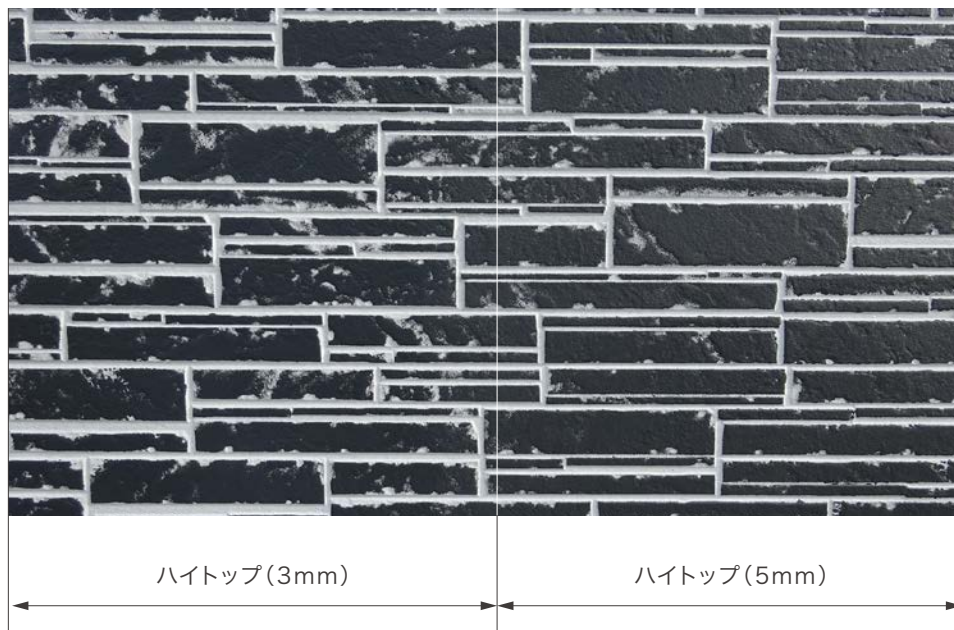


施工方法

③ 試し塗り

サイディングによって形状や目地の深さ、目地幅はさまざまです。

ローラーの毛丈・種類によっても塗料の入り具合や塗布される面積が変わりますので、試し塗りでの確認を推奨いたします。



■ 確認項目

試し塗りでは下記4項目を主に確認してください。

- ①ローラーの種類(毛丈の長さ)
- ②塗料の希釈量
- ③ローラーへの塗料の含み具合
- ④ローラーを転がす方向

チェックポイント

目地部分(凹部)まで塗料が入り込まない塗装方向や塗料の含みを確認してください。

■ 確認方法

さまざまな毛丈のローラーで試し塗りをを行い、左記項目を確認してください。塗装時はローラーを横及び斜め方向に進行させてください。毛丈の短いローラー(ハイトップ3mm)から確認し、塗料の入り込みを見ながら毛丈を上げて試し塗りをしてください。

チェックポイント

下塗り後にベース色を使って試し塗りすることで、次工程のベース塗りでそのまま塗りつぶすことができます。

④ ベース塗り(1~2回塗り)

ベースの色(サイディングの目地や凹部分)となる中塗り塗装を行います。中毛または長毛ローラーで基材全体をムラなく均一に塗装してください。

推奨ローラー	ウルトラローラー
--------	----------



下塗り材(白色)の塗装まで実施した状態。



目地に塗料が溜まると模様塗りに影響が出ますのでご注意ください。仕上げはサイディング形状の長辺方向に動かすことで仕上がりが良くなります。



ベース色が均一に塗布され、目地に塗料が溜まっていないことを確認してください。

⑤ 模様塗り

表面(凸部分)を塗装していき、サイディングの意匠性を再現します。短毛ローラーで凸部分を1回塗装してください。

推奨ローラー	ハイトップ(3mm・5mm)
--------	----------------



短毛ローラーで凸部にのみ塗装します。ローラーはサイディングの模様方向、または斜め方向に動かすことで目地部に塗料が入りにくくなります。

チェックポイント

ローラーには強い力を加えず、事前に確認した塗料の含み具合や塗る方向で塗り込みを調整してください。



仕上げはサイディングの模様方向に塗装してください。膨れの原因になるため、塗装後は十分に乾燥させてください。

施工方法

⑥ クリヤー保護コート

中塗り・上塗り塗膜の耐候性を高め、色落ちや色あせを防ぎます。
中毛または長毛ローラーで基材全体を1回塗装してください。

推奨ローラー

ウルトラローラー

対象製品



ウルトラTOP

※ウルトラTOPは、ハイパイルローラー等を使用すると気泡が入り込み白濁の原因となりますので、必ずウルトラローラーをご使用ください。

©円谷プロ



インテグラルコート



一般的なクリアー塗装と同様に、目地や凹部の塗り残しがないよう特に注意しながら塗装してください。塗り残しがあると、仕上がりのムラになったり経年後の劣化度合いに差が出る場合がありますのでご注意ください。



仕上げはサイディングの模様方向に動かすことで仕上がりが良くなります。塗り残し、塗り忘れはないかチェックしてください。ウルトラTOPは水性エマルジョンのため塗装面が白く見えることがありますが、十分に乾燥させることにより透明になります。

■ 艶調整品を使用する場合

艶調整品で仕上げる際、サイディングの形状や色の濃度によっては塗布量の差による艶ムラが目立ちやすくなります。十分注意し、面で切って塗装するなど均一に塗りつけてください。

補修方法について

■凸部の補修方法

凸部への当て傷などを補修する場合は、部分的にベース塗り工程から再度実施し、補修してください。補修範囲を少し広くとることで、補修跡を周りに馴染ませることができます。



■目地部の補修方法

目地への模様塗り塗料の入り込みや汚れの付着が見られる場合も再度ベース塗り工程から実施してください。補修範囲を少し広くとることで、補修跡を周りに馴染ませることができます。



施工上の注意事項

- デコラトーンの施工に関しては、必ず使用する各塗料の仕様書をご確認ください。
- デコラトーンは使用するローラーや塗り手によって塗料の入り込みが変わりますので、事前に打ち合わせと試し塗りを行ってください。
- 艶調整品で仕上げる場合、サイディングの形状や色調(特に濃彩色)によって艶ムラが目立ちやすくなります。塗り継ぎに注意し、必ず面で切って均一に施工してください。
- 施工環境が気温5℃以下の場合、湿度85%RH以上の場合、結露が発生する可能性がある場合、外部での施工で降雨が予想される場合には施工を避けてください。仕上がり不良、剥離などの不具合が発生し、本来の塗膜性能を発揮できない恐れがあります。
- 被塗物の表面温度が5℃以下の場合には塗装を避けてください。
- シーリングは後打ちを推奨しますが、シーリング材の上に施工する場合、シーリング材の種類などにより、汚染、密着不良、割れが発生することがあります。塗り重ね適合性を十分確認のうえ、施工してください。
- 素地調整や水洗いが不十分だと剥離や光沢が出ないなどの本来の塗膜性能を発揮できない恐れがあります。塗り替えでは必ず高圧洗浄やブラシなどを使い、付着物や劣化塗膜を十分に除去してください。
- 水洗い後は日数を空け十分に乾燥させてください。また塗装面が雨や霧などで濡れている場合は、十分に乾燥するまで塗装しないでください。
- 工程間の間隔時間は各製品の仕様を厳守してください。
- 塗料はできるだけ屋内で、直射日光や雨に当たらない、また、子供の手の届かない場所に保管し管理してください。
- 塗料や塗料の付いた衣類及び使用済み容器などを廃棄する場合は、関連法規を遵守し、産業廃棄物として処分してください。(排水溝・河川・下水・土壌などを汚染する場所へ廃棄しないでください。)
- ご使用の際は各製品の容器に記載されている注意事項をよく守ってください。また詳細な内容は安全データシート(SDS)をご確認ください。

 DECORA TONE